

2020 年 4 月 30 日

本多通信工業株式会社

取締役会の実効性評価

当社は「常に最適なコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組む」とした基本方針に則り、「取締役会の実効性」を自己評価しました。把握できた課題の改善により、引き続き、取締役会の意思決定機能及び監督機能の向上を図ってまいります。

1. 評価の方法

- ① すべての社外役員(5名)を中心とした意見交換会にて、評価項目を協議し、取締役会の賛同を得て、全取締役・全監査役を対象にアンケートを実施しました。
- ② アンケートは、“取締役会は意思決定機関として役割・責務を実効的に果たしているか”等の設問に対し、求められる水準に照らして、“十分、満足”から“不足”までの5レベルで評価し、その判断理由を記す内容です。
- ③ 取締役会にて、本アンケートの集計結果に基づいて、当社の取締役会の実効性を自己点検するとともに、課題を抽出し、今後の取り組みを明確化しました。

2. 評価結果

- ① 今年度は、環境の変化が激しいなか、社内外の喫緊の課題についてタイムリーな議論と対応ができました。またサクセッションプランについても踏み込んだ議論ができました。しかし一方で、中長期課題に関する議論に十分な時間を確保することができませんでした。
- ② 従前に比し、活発な議論がなされていますが、常勤役員からの質問や提案発言は少なく、改善の余地があります。

3. 今後の取り組み

喫緊のテーマへの協議を優先しつつも、中長期的な経営テーマについても十分な議論ができるよう、取締役会に同期して開催中の意見交換会の場を活用するなど、運営を工夫します。

また、議論の一層の活発化の基礎とすべく、常勤役員における担当外や専門外分野への見識を拓げるために、機会の提供を継続するとともに、自己研鑽を促します。

以上